

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400044		
法人名	医療法人社団健祉会		
事業所名	アポロン伊太		
所在地	静岡県島田市伊太2170-1		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosyoCd=2295400044-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;lgvosyoCd=2295400044-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成29年3月6日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・調理、洗濯たみ、部屋の掃除など家事を一緒に行うことで、家庭的な雰囲気を楽しんでいます。  
 ・皆で育てた野菜を使い、バランスのとれた食事を提供しております。  
 ・足腰の筋力低下防止のため、毎日歌に合わせて運動をしたり、施設の外に散歩にいき、地域の皆様とのふれあいを大事にしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

サテライト介護老人保健施設をはじめ、小規模多機能型居宅介護、デイサービス、訪問看護と共に、複合施設の中の一つのサービスとして運営しているホームである。その特長を活かして合同で開催する夏祭りは、近隣住民の来場が多く、利用者や地域にとって楽しみの一つとなっている。昼食前後の利用者たちは、洗濯物を取り込んだり、職員と昼食の準備や片付けをしたり、配膳下膳を手伝ったりしている。その傍らには、静かに座っている利用者や職員に話しかけている利用者の姿もあった。一人ひとりが自然体で、その人らしく過ごしており、「当たり前前」の生活を実践しているホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・グループホームの理念を掲示し、共有でき、実践につなげている。 ・毎年目標を設定し評価している。	ホーム独自の理念「一人一人の思いを大切にし、笑顔あふれる生活を支援します」は管理者と職員で話し合い作成した。理念を浸透させ、支援につなげるために、個々に短期目標と長期目標を立て取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・夏祭り、文化祭、ボランティアの受け入れ、散歩時に挨拶や会話をしている。 ・地元の祭りが屋台を引いて披露してくれる。	町内会に加入しており、ホームの催しのお知らせなどを回覧してもらうこともある。3年に1度の帯祭りでは、祭りの参加者である管理者の計らいで、ホームにも行列に来てもらい、利用者だけでなく地域の方にも喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の方との触れ合いを大事にし、ボランティアの受け入れや、周辺を散歩する中で地域の方との交流を持つようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・家族会などを開き、家族の声を聞き取り、ケアにつなげています。又結果を運営推進会議などにて報告しています。	家族や町内会長・民生委員・市の職員・地域包括支援センター職員などが参加し、年5回開催した。利用者の状況や活動報告が中心であるが、認知症サポーター養成講座を組み込むなどの工夫もしている。	年々開催回数が増え努力が窺えるが、地域密着型サービスにとっての運営推進会議の重要性を再確認し、2ヶ月に1度の開催が実現されることに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議やケアマネ会議などにて情報を発信し、お声を聴かせて頂いております。	運営推進会議には毎回市の長寿介護課と地域包括支援センターの職員が参加し、ホームの実情を理解してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・外部研修講習後、全体研修にて報告し、周知、実践しています。 ・入口の施錠は利用者様の状態にて夜間のみ行う時有り。階段部は危険なため施錠しています。	新人研修時に学ぶ機会を作ると共に、職員の身体拘束に対する理解レベルに応じた研修を行っている。気になる行動などについては、月1回の会議でその都度伝えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全体研修にて報告会を持ち、周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体研修にて報告会を持ち、周知しています。 ・ケアマネは研修に参加し、必要のある家人に説明をする。(今のところ活用の機会なし)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・書面、ケアマネによる説明にて理解、納得したうえで入所をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・サービス担当者会議にて、意見、要望をくみ取り、ケアプランに反映しています。 ・家族会などで意見交換をしています。	ホーム主催の家族会には3家族の参加があった。家族宛のお便り「アポロン伊太新聞」に、担当職員からの一言欄を作ることでホームに関心を持ってもらい、足を運びやすく話しやすいホームになるよう工夫している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・グループホーム会議などで、個々にて意見のある方は、その都度意見を聞くようにしています。	職員は日常の中で、勤務体制についてなども管理者に伝えることができている。会議の際には、管理者側から「無礼講でも良いから」と伝え、職員が意見を言いやすいように配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・賞与時に自己評価、他者評価を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・内外研修への参加。 ・委員会への所属。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者との交流の場が持っていません。 ・ケアマネに関してはケアマネネットにて、交流を持ち意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・訴える事が出来る方は聞き取りしているが、出来ない方については、会話の中で訴えを聞き取るようにしています。 ・ケースカンファレンスにて情報交換しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面会時などに積極的にコミュニケーションをとるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・毎月のモニタリングを行い、変化に対応するようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いち早く情報を把握しできる事を見極め、家事などを共に行うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族との関係を大切にしつつ、皆で支え合うようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・入所が長くなるにつれ、面会が減ってきている。 ・買い物などで外出するようにしています。 ・行事への参加をお願いしています。	何人かの利用者は、年に2～3回自宅に泊まりで帰ったり、利用者に家族宛の年賀状を書いてもらったりするなど、関係継続の支援に努めている。法人内の他施設に移動した方と行き来する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・利用者同士のトラブルが無いように配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・情報開示の要請があれば対応しています。 ・入院時など他事業所を利用するまでフォローしています。 ・相談があれば、対応させていただいております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々のこだわりを大切にしている。 ・家族の意向が主になってしまっている。	利用者各々の個性を把握して、日々の言動や行動・態度等から意向を汲み取るように心掛けている。毎日の申し送りやグループホーム会議・ケアカンファレンス等で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメント、ご家族の面会時に情報収集して把握し、個々の生活に反映するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・アセスメント、モニタリングを行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・月1回ケースカンファレンスを開催し、検討を行っています。	ケースカンファレンスでは担当職員から日々の様子を聞き、介護計画に反映させるように努めている。家族には担当者会議等で説明し、意見を聞いてから介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・申し送り等にて情報共有しています。 ・ケースカンファレンスで確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・柔軟性を持って対応しておりますが、施設本位な面もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・近くのスーパーなどに買い物に出かけたり、近隣を散歩し、地域の皆様との触れ合いを大切にしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・家族との話し合いを密にしています。 ・往診時、主治医との情報交換や指示を受けられるようにしています。	利用者や家族の希望により、かかりつけ医を決めている。ホームの協力医は月1回の往診を行っている。緊急の場合、日中は複合施設内の小規模多機能型居宅介護の看護師に指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	他の部署の看護師と連携、情報交換を取っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・ケアマネが病院のソーシャルワーカーと連絡を取っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・医療連携を行う方針だが、なかなか話が進展していない。施設として方向性をしっかりと決め、家人に意見を求め進めていきます。	終末期や看取りについて、グループホームの考え方や方向性はまだはっきりしていない。アンケートを取る等、家族の意見も確認しながらこれからの方針について検討している。	入居年数の経過に伴い、利用者の高齢化が進んでいることを踏まえ、医療連携を進めホームの方針を明確にして、家族に示せるよう整えていくことに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・研修を行い、マニュアルに沿って対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回の防災訓練を行っています。 ・マニュアル作成。 ・運営推進会議にて地域の方に報告、協力をお願いしています。	夜間想定のある防災訓練も行っている。防災訓練には利用者も参加しているが、地域住民の協力はあまり得られていない。複合施設として発電機を設置しており、食糧と水はまとめて備蓄している。	事業所が地域の緊急時の一時避難所としての役割を持つようにし、避難訓練に双方が参加できるよう働きかけることで、災害時の地域との協力関係を築いていくことに期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入室の際は常に声かけノックをしています。</li> <li>・プライバシーに配慮をし、入り口にはのれんをかけています。</li> <li>・常に敬意を払って対応しています。</li> </ul>	職員研修では必ず取り上げ、全職員が学べる機会を作っている。利用者が一人になれる時間を大切にしたり、個人情報が出漏れないように、電話や外部の人の来訪についても細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・声かけにもこちらが押し付けるような声かけをせず、選択肢を用意して、ご希望に沿うように努めている。</li> <li>・希望や願いを常にお聞きするようにしています。</li> </ul>		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集団生活なので1日のプランがあるが、ご本人のペースに合わせた活動をしている。</li> </ul>		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着替えは自己にて決めて頂いています。</li> </ul>		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理、配膳、片付けは職員と一緒にしています。</li> <li>・献立に希望を聞くようにしています。</li> </ul>	食事前に口腔体操を済ませ、利用者も職員と一緒に配膳や下膳をしたり、当番で食器洗いを行ったりしている。花見に出掛けた帰りに、外食をすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事のバランスを考えて、献立を考えています。全量摂取できるよう工夫をしています。</li> <li>・決まった時間に水分補給を行っています。また夏はいつでも飲めるようにポットを置いています。</li> </ul>		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔ケア毎食後行っていただいています。</li> <li>・義歯は每晚洗浄行っています。</li> </ul>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立の方がほとんどです。本人の排泄パターンに任せています。失禁のある方は確認行っています。	排便量については、水分摂取量と食事量だけでなく、睡眠状態も気に掛けながら良好な状態を保てるよう支援している。夜間のみ、ポータブルトイレを使用している利用者がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分量の確認を行う・やわらかく調理したり、食物繊維摂るような献立をたてています。・散歩、体操を行い身体を動かすようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・週3回の午前中の中の入浴を行っています。入浴時間は個々の希望に沿って行っています。・その方の好みの音楽をかけて入浴することもある。	無理強いせず声掛けを工夫して、1日おきに入浴を行っている。脱衣所にCDプレイヤーを置き、入浴の際に好きな音楽やラジオを流して、入浴を楽しむ支援を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・なるべく日中は起きて頂いていますが、希望があれば自室にて休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を確認する。又解らない場合は看護師、薬剤師に確認しています。その都度状態を確認し、主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・全ての生活歴を把握できていませんが、その都度家族に確認、アセスメントを行っています。・嗜好品については買い物できるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・個々の希望に沿う事は出来ませんが、年間行事を立て、ドライブ、食事会などに出かけています。・天候の良い日は施設外を散歩しています。	天気の良い日には、ホーム近くの川沿いを歩いたり、外の回廊を歩いてベンチに腰掛けたりしてくつろいでいる。雨の日には、サテライト介護老人保健施設等の利用者とのコミュニケーションを取ることもある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ほとんどの方は預らせていただいています。希望がある場合はこちらで買って来たり、一緒に買い物に出かけたりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望があれば電話をかけられるよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・各部屋の入口に暖簾をかけてプライバシーに配慮しています。 ・季節の花などで季節感を取り入れていいます。	六角形の食卓の中央に花が飾られており、落ち着いた雰囲気を出している。当番制で利用者が洗い物をしたり、当たり前のように洗濯物を干す姿が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・自由に行動できるようにしています。又、席の配置などにも配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人、家族と相談し、危険の無いもの、なじみの物を持ち込んで頂いています・自己にて作ったものなども自室に飾っていただいています。	居室の入り口には、各々違う柄の暖簾が掛けられている。利用者の手作りの飾られている部屋や、畳柄のクッションフロアを使用して和風に作られた部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自立を重視しておりますが、危険の無いよう、見守り出来る位置に職員がいるよう配慮しています。		